

**「間伐チップの紙製品への利用促進に係る意見交換会」（第2回）
意 見 の 概 要**

（敬称略）

- 1 日 時 平成 20 年 4 月 30 日（水）14:00～16:00
- 2 場 所 農林水産省 共用第 10 会議室
- 3 出席者
- 石島 操 全国森林組合連合会 代表理事専務
 佐々木 巖 全国素材生産業協同組合連合会 専務理事
 岩切 好和 全国木材チップ工業連合会 会長
 藤原 敬 (社)全国木材組合連合会 常務理事
 上河 潔 日本製紙連合会 常務理事
 河辺 安曇 王子製紙株式会社 林材部長
 松本 哲生 日本製紙株式会社 林材部長代理
 磯貝 明 東京大学 教授（製紙科学）
 眞柄 謙吾 独立行政法人森林総合研究所 バイオマス化学研究領域 木材化学研究室長
 石田 満男 富士ゼロックスエンジニアリング株式会社 参与
 半谷 栄寿 環境NPO オフィス町内会 事務局代表
 市瀬泰一郎 株式会社市瀬 代表取締役社長
 岡崎 時春 国際環境NGO FoE Japan 副代表理事
 滝 剛也 株式会社ファイル 代表取締役社長
- 【経済産業省】
- 荒木 茂長 製造産業局紙業生活文化用品課 課長補佐（紙・パルプ担当）
- 【環境省】
- 佐藤 仁泉 総合環境政策局環境経済課 製品対策係
- 【林野庁】
- 島田 泰助 林政部長
 岩本 隼人 林政部木材利用課長
 小林 忠秋 林政部木材産業課長 他

【間伐材チップの紙製品への利用にあたっての課題の解消策及び取組の方向性について】

1 総論

- 間伐材チップの紙製品への利用促進を図ることは極めて重要であり、しっかりと取り組んでいくべき。（全国森林組合連合会 石島、全国木材組合連合会 藤原、日本製紙連合会 上河）
- 間伐材をうまく切り口にして、国産材全体の活性化に繋がる仕組みに誘導出来ればと思う。（日本製紙(株) 松本、全国木材組合連合会 藤原）

- 皆伐跡地の林地残材も視野に入れることが必要。(FoE Japan 岡崎)

2 間伐、間伐材について

- 間伐材チップ利用は輸送過程の消費エネルギーが少ない等、実証的に話をして、多くの人に理解してもらえる努力をしていくべき。(全国木材組合連合会 藤原)
- 間伐材を使った場合、本当に環境に優しいのかどうかライフサイクルアセスメントの観点から、計算して根拠にすべき。(東京大学 磯貝)
- 過去やっていた間伐材(未利用間伐材)と、今後新しくやる間伐材を区別することは、これからの展開のなかで難しくなってくるのではないかと。絞り込みすぎると対応が困難。(日本製紙(株) 松本)
- 間伐材をターゲットとして取り組むのは一つの考え方だが、出口によってフレキシブルに対応できるようにすることが必要。(全国木材組合連合会 藤原)
- 今回の間伐材の定義を、林野庁の補助事業に係る間伐の定義よりも広くすべき。(FoE Japan 岡崎)
- 間伐材の明確な定義付け及び証明方法が必要。(日本製紙連合会 上河)
- 高齢級間伐という概念をどのように定義づけるかが重要。(全国森林組合連合会 石島)
- 私共のやり方は、極めてラフであるが、困っている所の切実度みたいなものを、間伐の必要性を測る上でのポイントとしている。(オフィス町内会 半谷)

3 間伐材利用の進め方について

- 紙製品で間伐材の利用を促進するためには、クレジット方式の導入が不可欠である。(日本製紙連合会 上河、日本製紙(株) 松本、(株)市瀬 市瀬、富士ゼロックスエンジニアリング 石田、オフィス町内会 半谷、(株)ファイル 滝)
- クレジット方式の導入にあたっては、しっかりした生産管理体制と消費者へのわかりやすい説明が必要。(オフィス町内会 半谷)
- 表示等の関係上クレジット方式が問題であるのなら、例えば「間伐支援紙」等の名称を使うなどの形でぜひとも具体化していただきたい。(日本製紙(株) 松本)
- 間伐材のチップとその他の国産材のチップを選別しなければならないということにならないように知恵を絞っていただきたい。(全国木材組合連合会 藤原)
- グリーン購入法の規定について、合法木材、間伐材の古紙に変わる使用の義務化を明文化することが必要。(全国森林組合連合会 石島)
- グリーン購入法における規定ぶりは、間伐材のみに限定するのではなく、環境にいい原料として、未利用材の一つとして規定すべき。(日本製紙連合会 上河)
- 間伐材を含めた針葉樹チップについては、利用しやすい製品から間伐材の利用拡大を図り、裾野を広げることが重要であり、特定の製品に限定すべきではない。(日本製紙連合会 上河)
- 数値目標はある程度設定が必要だが、特定の製品に限らない方がよい。(東京大学 磯貝)
- 製紙業界としては、間伐材の利用について、自主行動計画の中でしっかり位置づけるということをやりたい。それと合わせて、モデル的取組、具体的取組を展開したい。(日本製紙連合会 上河)

- 製紙連合会で自主行動計画を作成していただき、官としてはどうやって供給するか、どれくらい使ったかを検証するシステムを検討していくことが必要。（森林総研 眞柄）
- 具体的な取組を、ぜひ王子製紙としては進めていきたいし、そういう機会があれば一員として行動していきたいというふうに考えている。（王子製紙(株) 河辺）
- 地域で具体的な取組が出てくる場合には、その取組をターゲットとして、これだけのコストで何m3 動かそうというその目標が取組ごとに出てくるものと思う。（日本製紙(株) 松本）
- モデル地域を選定し、コスト分析をして、最終的に山主に戻るという事例の検討を進めることが必要。山側の規模と製紙会社の規模が落ち着くところとして、間伐面積何万 ha といった大きな規模でモデルを作るべき。（FoE Japan 岡崎）
- モデル的取組やクレジット方式については、森の町内会の取組も参考にしていればと思う。（オフィス町内会 半谷）
- 基本的には経済合理性、経済原則で動かさないとうまくいかない。（オフィス町内会 半谷、(株)市瀬 市瀬）

4 間伐材の供給体制について

- 間伐材の利用量を精巧に把握できるシステムが出来上がっていないため、間伐材の利用量が正確に把握できるトレーサビリティを確保できるシステムの構築が必要。（日本製紙連合会 上河）
- 工場の廃材の中で間伐材の背板と間伐材でない背板を分けて管理することは分別管理にコストがかかり、おそらく不可能。（全国木材組合連合会 藤原）
- 大口で安定的にチップ材を出すためには、チップ用材生産が採算ベースに乗る買入価格が設定されていることがひとつ。二つめが買入の計画量が中期的、長期的に明らかにされていること。三つめが買入価格がオープンであること。四つめが代金決済期間が短いこと。これらが大口で安定的に供給するための環境条件であると考えている。（全国素材生産業協同組合連合会 佐々木）
- 間伐材の安定供給等は、製紙業界の指示に従うというのがチップ業界の立場。地域における価格等を決定していただければ、ブロックごとに系列を超えた製造、供給が可能であると考え。（全国木材チップ工業連合会 岩切）
- 間伐材流通システムをしっかりと構築することにより、業界全体としてのコストダウンを図り、川上から川下までが一致して安定供給体制に取り組むことが必要。（全国森林組合連合会 石島）
- 素材生産コストの低下が必要であり、今後はABC材、トータルでの生産コストの低下を考えて行かねばならない。そのための体系整備に併せて技術開発、機械開発が必要。（全国素材生産業協同組合連合会 佐々木、全国森林組合連合会 石島、日本製紙連合会 上河）
- 林道、作業道等路網の整備を進めることが必要。また、大量に運ぶとの観点からトレーラー等が通れる改良等も考える必要がある。（全国素材生産業協同組合連合会 佐々木、日本製紙連合会 上河、日本製紙(株) 松本、FoE Japan 岡崎）
- 供給のコストダウンについては、間伐材を大量に集積して、一度に大量出荷できるような仕組みを作ることが必要。（森林総研 眞柄、日本製紙連合会 上河、全国森林組合連合会

石島)

- 個人所有、個人管理の森林から、地域全体で間伐材を安定的に搬出可能な森林となるようなシステムの構築や法律の整備が必要。(東京大学 磯貝)
- まずは、どこかでモデル地域を作ったうえで、そこでどのようなシステムが実現可能かどうかを模索するのも良い。(日本製紙連合会 上河)
- 国産材の総合利用のための供給、需要のシステムの両方を作り上げることが必要であり、実際に進めるにあたっては、モデル地域、モデル事業に、我々や林産業の方が参画して、実際にやってみることが必要。(王子製紙(株) 河辺)

5 技術的問題について

- 間伐材に適した紙製品の開発にしっかり取り組むべきである。(全国森林組合連合会 石島)
- 製紙業界が産官学、一般ユーザーと一体となり、アイデアを出して、解決に向けて取り組むことが必要。(東京大学 磯貝)
- 製紙メーカーの現在の実情を理解して、どのようにすれば使ってもらえるか考えることが必要。(森林総研 眞柄)
- コピー紙に限らず、使える所に使っていくことが重要。(森林総研 眞柄)

6 消費者への普及について

- 消費者にエコ商品ということを理解していただけるような販路拡大に積極的に取り組んでいくことが必要。間伐材マークを活用して、間伐材を使った紙製品の普及に努めてまいりたい。(全国森林組合連合会 石島)
- 間伐材製品の特性について消費者の方に十分に理解をいただくことが重要。(日本製紙連合会 上河)
- 国民一人一人のレベルまで、この紙を使えば国産材に貢献できるということを浸透させることが必要。(王子製紙(株) 河辺)
- 購入に貢献された方に対して、環境に貢献したということを認めるということが重要。(富士ゼロックスエンジニアリング 石田)
- サンキューグリーンスタイル、木づかい運動等を様々な形で発信、啓発していくことが必要。((株)市瀬 市瀬)
- グリーン購入法で国、官公庁の方々が率先して使っていただくのが大前提。((株)市瀬 市瀬)
- 間伐紙によるカーボンオフセットなどを検討し、消費者に対しても社会貢献ができるということを説明すべき。((株)ファイル 滝)
- クレジット方式が認められれば、クレジット方式で生産した分の同量分について、間伐材マークを認証するという事でやらせていただきたいと考えている。(全国森林組合連合会 石島)